



# 12月の園だより

令和5年12月1日

目黒区立祐天寺保育園園長

朝夕の風がとても冷たくなりました。いよいよ冬本番のようですね。

11月に乳児クラス、幼児クラスそれぞれで、大人が演じて見せる“お楽しみ会”を行いました。その後、幼児クラスでは自分達も演じてみたいという思いも膨らみ、“大きくなったね会”を目指して劇作りが佳境を迎えています。

先日、5歳クラスをのぞいてみると、劇の道具作りの最中でした。みんなで模造紙に描いたキント雲をどうやって立たせるかを考え、まず裏から段ボールを貼りました。次に一人が雲からはみ出た段ボールを切ろうとすると「待って。箱のままにしたら、上に乗れるよ」と箱を組み立て始めました。するとまた、別の一人が「あっ、箱の下を開けたままにしたら雲に乗ってるみたいに見えるんじゃない？」と、上下が開いたままの段ボール箱に入り、とことこと歩いて見せました。孫悟空がキント雲に乗って飛ぶ姿が想像できたのでしょうか。周りのみんなは、一瞬で納得の表情です。アイデアが出る度にイメージが繋がり、更なるアイデアが重なっていく白熱した作業場面でした。そうして工夫を重ねるうちに、道具にも子どもたちの愛着がこめられていくようでした。

日頃の楽しい遊びでの仲間との繋がりが、こんな風に物語をみんなでイメージした劇ごっこにも発展しています。更なる展開が楽しみです。

## 〈12月の行事予定〉

大きくなったね会（3・4・5歳児）  
5歳児クラス懇談会

中旬 避難訓練・身体測定

## 〈年末年始のお知らせ〉

保育園は

12月29日（金）から

1月3日（水）まで

お休みです。

## 乳児お楽しみ会の様子



乳児クラスの子どもたちに向けて、保育士が手遊びや人形劇を行いました。

手遊び・ちょちょちあわわ

パネルシアター・野菜のうた

人形劇・大きなかぶ（1歳クラス、2歳クラス）

0歳児はクラスで、1，2歳児は1歳児室に集まって行いました。0歳の子どもたちは初め、何だろう？という表情を浮かべていましたが、日頃から慣れ親しんでいる手遊びからの始まりだったので、少しずつ表情が和らぎ、傍にいる保育士にこっと笑って楽しい気持ちを伝える姿がみられました。大きな布遊びへも触ってみようとするなど興味を示していました。1，2歳の子どもたちも、部屋に作られた舞台を見て興味津々でした。歌に合わせて一つ一つ登場する野菜のパネルシアターに「とまと」「かぼちゃ」と大きな声で名前を呼んだり♪かぼちゃはちゃちゃっちゃっ♪と手遊びを楽しんだりしていました。“おおきなかぶ”の人形劇では、おじいさんやおばあさん、犬などの人形に注目し「うんとこしょ、どっこいしょ」と一緒に体を動かしながら台詞を言ったり、かぶが抜けると「おーっ」と声を上げて喜んだり、楽しんでいました。

短い時間でしたが、友達や保育士と一緒に見て聴いて笑った、乳児お楽しみ会でした。



## 幼児お楽しみ会を見た後の幼児クラスの様子

幼児お楽しみ会では、職員が子どもたちの前で「桃太郎」の劇を演じました。

子どもたちの自分たちもやってみたいという気持ちにつながるように、身近な職員が身の回りにある物で作った小道具を使いながら役になりきりました。



りす組（3歳児）・うさぎ組（4歳児）



りす組は「桃太郎」の劇を見た後園庭に出ました。保育士が靴箱の上に置いてある沢山の泥だんごを見て「これはひょっとしてきびだんご…」と言ってみると「そうだよ。きびだんごだよ」と子どもたちもすっかりきびだんごに見立てていました。そして、「もったきびだんごを作って、鬼退治に行こう」とさらに泥だんごを作りはじめました。

一方、うさぎ組は「劇やりたい」の声があがり、みんなで園庭で桃太郎ごっこをすることになりました。「何役になろうかな」などと話していると、りす組の子が「キジになる」ときびだんごを見せにきました。「きびだんごいっぱいだね」「鬼退治に一緒に行こうか」と保育士が言うと子どもたちが桃太郎になり、一緒に桃太郎ごっこが始まりました。犬になったり、原作には登場しないアオムシになったりして次々にお供する仲間が増えていき、りす組の保育士と子どもで鬼になり、宝を盗んだりお酒を飲んだりしました。鬼ヶ島に行き鬼を退治するシーンが一番の盛り上がりで「鬼をやっつけるぞ」「負けないぞ」と白熱していました。桃太郎と仲間たちが鬼退治をして物語が終わると「もう一回やろう」「次はおばあさんになる」などいろいろな役になって何度も楽しんでいました。

これからも友達や保育士とイメージを共有し一緒に楽しみながら遊んでいきます。



きりん組（5歳児）



幼児お楽しみ会で「桃太郎」の劇を見てから、もう一度桃太郎の絵本を読むと、おじいさんが出てくる場面で劇で見たようにおじいさんになりきって台詞を言う子がいました。保育士が「おや、〇〇くんおじいさん、向こうから桃が流れてきましたよ」と言い話を進めると、他の子も「じゃあ、おばあさんやる」「ぼく、桃太郎」と次々と役になって参加し始めました。子どもたちなりのアレンジを加えたり、役を変えたりして繰り返して遊んでいるうちに「他のお話もできるのかな」と色々な物語の世界を表現することに興味を広げていきました。特に子どもたちの大好きな物語の「そんごくう」が盛り上がり、友達とイメージを共有しながら「ここで大きな石があったらいいよね」「如意棒はくるくる棒でつくれるんじゃない？」などと物語の舞台や道具も一緒に作ることを楽しみ始めました。そして、12月には「大きくなったね会」があることを話すと、みんなで楽しんでいる「孫悟空」の世界を「お母さん、お父さん達にも見せたい」という思いにつながっていきました。